

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和 7 年 7 月 18 日

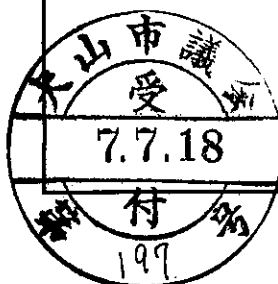
犬 山 市 議 会

議 長 大 沢 秀 教 様

議員名 柴田 浩行

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和 7 年 7 月 8 日 (火) ～ 9 日 (水) (1 泊 2 日)
(2) 場 所	熊本県 ①天草市 ②八代市 ③熊本市 熊本城
(3) 形 態	会派 (創犬会) : その他 ()
(4) 内 容	①熊本県天草市 「公共施設の再配置について」 (課題) ・人口減少と高齢化による公共施設の利用者の減少 人口：平成12年102,907人→令和22年48,301人（見込） 令和12年高齢化率46.8% ・普通交付税が大きく減少 → 合併査定替え終了、人口減少、高齢化 ・令和11年までに、法定耐用年数を超える施設が1,033 → 全体の77% ・合併前の市町の公共施設をそのまま引き継いだため、 公共施設が多い → 施設全体の最適化が必要 (課題に対応するために) ・財政負担の軽減、平準化及び公共施設の最適な配置の 実現に取り組む (基本方針として) ・平成28年7月「天草市公共施設等総合管理計画」策定 ①保有総量の縮小 → ポートフォリオによる評価を行い核施設の方針 を決定 ②効率的かつ効果的な利用の促進 → 利用エリアを拡大し、統廃合や複合化を検討 ③長寿命化の促進 → 新築は難しいため計画保全で対応 (行動計画として) 平成31年3月「天草市公共施設再配置・個別施設計画」 策定 ②施設の数や規模を縮小しても、機能向上により便利に する「縮小充実」の考えに基づき、整理・統合・複合 化を進める。



(5) 成果・提言	天草市は、平成18年3月27日に2市8町が合併して誕生した。そのまま公共施設を引き継いだために公共施設の数が非常に多い。その上、少子化・高齢化が急激に進んでいる。待ったなしの状況で、公共施設の再配置に取り組んでいる。 担当者からは、「住民サービスの低下と市民は受け止めている。」との話が有った。市民からの反発は当然だと考える。 統廃合や再配置を進める際には、地区毎に住民説明会を実施し、数値化した分かり易い説明、意見への回答など丁寧な対応をしながら進めているとのことであるが、基本方針に基づき強い意志で取り組んでいる。 市長がトップとして責任を持ち、公共施設の再配置を推進している。市長自らが市政懇談会等で、直接市政への理解を求めている。そして、議会も総論賛成、各論反対ではなく、行政と一緒に再配置の推進に取り組んでいる。 本市においても、公共施設の再配置は喫緊の課題である。 再配置の必要を市民のみなさまに理解いただき、行政と議会が一体となってスピード感を持って取り組まなければ、将来に大きな財政負担を課すこととなる。
-----------	--

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和7年7月8日(火)～9日(水) (1泊2日)
(2) 場 所	熊本県 ①天草市 ②八代市 ③熊本市 熊本城
(3) 形 態	会派 (創犬会) : その他 ()
(4) 内 容	②熊本県八代市 「スマートシティについて」 (課題) ・ 少子高齢化 地域コミュニティの維持、産業の担い手確保、持続可能な行政運営 ・ 令和2年7月豪雨災害 災害からの創造的復興、災害対応力の向上と防災対策の強化 ・ 新型コロナウイルス 新しい生活様式への対応、感染防止と経済対策の両立 (課題に対応するために) ・ スマートシティを目指す 令和4年4月「八代市デジタル化推進基本計画」策定 (重点取り組み) ①防災 大規模災害時における情報収集・提供体制の構築、避難所運営の効率化 ②市民サービス オンライン申請の拡大、公共施設オンライン予約、デジタル市役所の推進 ③医療・保健・福祉 デジタル技術を活用した医療サービスの提供 ④農業 スマート農業推進プロジェクトの実施 (成果) スマート避難所システム→「はちパス」 デジタル医療MaaS推進事業→オンライン診療 公共施設予約システム→市の単独システム(83施設) 道路異常通報システム→市職員が作成 八代市公式ポータルアプリ→「やつしろポータル」 (今後の課題) ①職員の意識変化とスキルアップ ②アナログ規制見直しへの対応 ③市民のデジタル活用の推進 ④セキュリティ対策 ⑤デジタル化による維持管理コストの増加

(5) 成果・提言	スマートシティ導入のきっかけは、令和2年7月の豪雨との事である。（死者4名、負傷者20名、行方不明者1名）市民の命と暮らしを守るための防災機能の強化は常に求められる。 八代市では、デジタル田園都市国家構想交付金を活用して、スマート避難所システム「はちパス」を導入した。また、八代市デジタル医療MaaS推進事業を実施した。 きっかけは防災機能の強化であったが、基本計画を策定することで、デジタル化を推進して市政の課題と向き合っている。 デジタル人材育成に力を入れ、全庁的に職員のスキルアップを図ることはデジタル化を推進する上での根幹になると考える。また、デジタルデバイド対策として、ソフトバンクと連携協定を結び、市民のデジタル活用の推進を図る取り組みは、本市でも必要だと考える。 本市においても、デジタル化を推進する上で、職員のスキルアップだけではなく、市民を巻き込み、犬山市全体でのスキルアップが必要だと考える。 市民がデジタル化の推進による安全・安心なまちづくり、市民生活の向上を実感できる取り組みが求められる。
-----------	---

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和7年7月8日(火)～9日(水) (1泊2日)
(2) 場 所	熊本県 ①天草市 ②八代市 ③熊本市 熊本城
(3) 形 態	会派 (創犬会) : その他 ()
(4) 内 容	③熊本県熊本市 熊本城 「復興の取り組み及び復興状況について」 (被災状況) ・平成28年4月の熊本地震で、大天守最上階屋根や鯨や瓦が落下 ・天守内部では、大天守6階の柱の損傷や小天守1階の床が沈下 ・建物全体で壁や床のコンクリートに多くのひび割れが発生 ・小天守内側の石垣がほとんど崩落。外面も崩落・変形が多く発生 ・大天守内側の石垣に崩落・変形が多く発生したが、外面には大きな変形はなし ・重要文化財建造物被害：13棟（倒壊2棟、一部倒壊3棟） ・石垣被害：崩落50カ所、変形多数 約23,600㎡（全体の29.9%） (復旧基本計画) ・平成28年12月「熊本城復旧基本計画」策定 ・令和5年3月「熊本城復旧基本計画」改定 (復旧期間) ・2017年（平成29年）から2052年（35年間） (復旧への取り組み) ・令和2年3月特別見学通路完成 →被害状況や復旧過程を安全に観覧できる ・令和3年1月重要文化財建造物の復旧第1号として長堀が復旧 ・令和3年3月天守閣完全復旧 (復旧方針) ①被災した石垣・建造物の保全 ②復興のシンボル天守閣の早期復旧 ③石垣・建造物等の文化財的価値保全と計画的復旧 ④復旧過程の段階的公開と活用 ⑤最新技術も活用した安全対策の検討 ⑥100年先を見据えた復元への礎づくり ⑦基本計画の策定・推進

(5) 成果・提言	犬山城は、犬山市民の誇りであり、国の宝である。熊本城は、熊本市民、熊本県民の誇りであり、シンボルだと認識している。熊本城の早期復旧を願う。 大地震により被災した熊本城を映像で見た時に、大きな悲しみを受けた。お城という文化財がいかに市民の日々の暮らしに欠かせない大きな存在であることを再認識した。 本市においては、国宝犬山城を次世代に継承していくために防災対策の強化に取り組んでいる。「犬山城防災計画」が令和7年度中に策定され、実施設計を経て、令和9年度から順次、防災設備の更新・新設工事を行う予定である。災害はいつ襲ってくるか分からない。早急に防災対策を強化すべきだと改めて提言する。 熊本城の復旧への取り組みが、復旧過程の文化・観光資源等として活用を図っている点は参考となる。 今後、犬山城の大規模な改修等の工事の際には、工事過程を文化・観光資源等として活用を図ることを検討すべきだと考える。
-----------	--